

予知・予測

「**予測**」とは、現在の状況を自分なりに判断し、過去の経験に則って、数秒・数分・数時間・数日・数週間・数ヶ月あるいは数年後のことを、あらかじめ考えたり準備しておいたりすることをいう。

「**予知・予言**」は現在の状況にかかわらず、いわばとんでもないことをあらかじめ言ったり、記録に残したりするもので、論理の飛躍があることが必須の条件である。

いつとき心霊現象はないと騒ぐ連中がTVを私物化し、大声で難じたことがある。はたしてそうだろうか。

一方で、なんでもかんでも心霊現象や超能力に結びつけようとする人もあって、この両者の話がかみあわないのは当然である。理解不可能な理論めいたことですべて説明しようとしているらしいが、思ったとおりにできないのに「説明が可能」というだけで、**世間**は納得しているらしい。これは、本当の超能力者を知らないからである。早稲田の大槻などが表面にでていますが、無理矢理説明しているだけで、真実かどうかは別というのを知らない。

たとえば、**ピリ・レイス地図**がある。南極大陸の海岸線まで描いた地図で、1513年に書かれたもので、エジプトのカイロの上空からの俯瞰図としか考えられないという。この頃は南極大陸は氷で覆われていたはず

で、どうみても南極に氷がなかったときに撮影した「航空写真」をもとに描いたものである。ならば、どこでどうして手にいれたか。この説明はできない。

透視がある。手近なところでいえば財布の中身をあてるもの。元来宗教家なら誰でもできた。予言もそう、事がおこってから「予言していた」というから笑われる。予言書を数多く出版しているのもそう。

ノストラダムスの大予言で激論するけど、これで商売している人は一生懸命だが、・・・凡百の預言者や予言の解説者と称する連中は、すべてノストラダムスの予言を誤って解釈し、しかもそれを全面的に信用しきっているから、世紀末思想と相俟って「すでに間違っていないと認識し、正しいものと信じきって」スカタンな解釈をしている。まあまだ来ていないから何を言ってもかまわないが、自分の解釈がはずれていたら二度と公衆の面前に姿をあらわさないでほしい。ノストラダムスはそんなこと予言してへんで。・・・1999を仏語で書いているが、地球滅亡なんかどこにも書いていない。解釈する連中が勝手に騒いでいるだけで、しかもノストラダムスはそのような他人を惑わす輩が輩出するとまで記録している。1896年長南年恵の拘置理由は、「みだりに吉凶禍福をとねえ、虚言を弄し・・・愚民を惑わせる」である。100年経っても同じ「愚民」がそこらに掃いて捨てるほどいるということである。

予知・予測について、幾度も繰り返してきたが（実はまだ掲載していない）、先の超能力を否定する連中に

もじつはこの能力がある。でなければ、いままで生きていないだろう。3秒先のことを考えないのは生きていく能力がない。いくら親切にしてくれたからといって、初対面の人を信じきってしまう人など、馬鹿としかいえない。**警戒心の欠如**で、これがなければ早晩何かのことで死ぬだろう。だから、いま死んでちょうどいいのである。郵送されたクレゾールを飲んで入院したというのを、新聞は一方的な無垢の、無差別テロの被害者扱いをするのだから、何をかいわんや、である。あんな臭いものをのむ神経が理解不可能である。……

予知の話である。否定派のいうのは、自分がそういう超心理学・超科学とでもいうべきことについて理解できないからで、**自分が理解できるところまでが宇宙の真理**でそれ以外の事柄が存在する、などと考えたこともない連中のことをいう。単なる「無知」なのであるが、幾千万言費やしてもその思いこみを翻すことはできない。無駄な努力であるが、これらに踊らされている人を救うことは可能であろう。

先の大槻がTVで言った中で唯一に近いいいことがある。ノストラダムスに関連してある男が唱えたことに対して、「オイッ！コラ！オマエ！自分の解釈を信じない人間はみな滅びるというのか、バカモノ！それじゃオウムと同じじゃないか！何を言っているんだ！」……これは正しい。

1999.01.28.